

令和5年度第3回蒲郡市子ども・子育て会議 議事録

日 時	令和6年2月15日(木) 午前10時から午前11時30分まで
場 所	蒲郡市役所本館3階 304会議室
出席者	(委員) 17名出席 ※別紙出席者名簿のとおり (事務局) 子育て支援課: 次長、主幹、係長、主事
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和5年度第3回蒲郡市子ども・子育て会議 次第</li> <li>・ 蒲郡市子ども・子育て会議 委員名簿</li> <li>・ 資料1 令和6年度蒲郡市特定教育・保育施設認可定員と利用定員(案)</li> <li>・ 資料2-1 蒲郡市子ども・子育て支援事業計画策定に伴うニーズ調査について(速報値)</li> <li>・ 資料2-2 蒲郡市の子ども・子育てに関するアンケート調査(未就学児童)</li> <li>・ 資料2-3 蒲郡市の子ども・子育てに関するアンケート調査(小学生児童)</li> <li>・ 資料2-4 アンケート速報値(抜粋)</li> <li>・ 資料3 令和6年度蒲郡市子ども・子育て会議の日程</li> <li>・ 子育てコンシェルジュ便り No. 42、43</li> <li>・ 令和5年度第3回蒲郡市子ども・子育て会議 席次表</li> </ul>

議事: (進行) 事務局 高橋晃健康福祉部子育て支援課長

○教育委員会学校教育課 課長 宇野晶由

○資料の確認

## 1 あいさつ

(渡辺会長) 皆様、おはようございます。今年は元日にあのようなことがあり、驚いてしまいました。何ていう1年の始まりなのだろうと思いました。1日も早い復興を願っております。今日のこの会は、今年初めてで今年度最後の会となります。そんな今、世界が混乱していると感じる中で、できるだけ明るい未来を子ども達に用意してあげたいと思っています。ぜひ皆様の色々なご意見をいただきたいと思います。今回も少し時間的な余裕があるのではないかと思います。最後の会ですので、何か「伝えておきたい」ということがありましたら、ぜひお話しただけたらと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

## 2 議題

### (1) 特定教育・保育施設の令和6年度利用定員について(資料1)

(事務局倉橋からの説明)

質疑応答

質問なし

### (2) 第3期蒲郡市子ども・子育て支援事業計画策定に伴うニーズ調査について(資料2-1~2-4)

(事務局仲村からの説明)

#### 質疑応答

---

- (渡辺会長) WEB回答の回答率は分かりますか？
- (事務局仲村) 回答者1,782名のうち1,182名がWEB回答していただいておりますので、66.3%がWEB回答、紙回答が33.7%です。WEB回答のほうが多いということになります。
- (渡辺会長) 予想以上でしょうか。そのような時代なのですね。WEB回答を実施してよかったですね。
- (事務局高橋) 今回、WEBでもできるような形で実施しましたが、実は質問項目のボリュームがかなり多かったので、なかなかWEBでも大変だったという話も聞いています。この第3期子ども・子育て支援事業計画は、2か年で作っていくということで、今年度が1年目となります。まずはこのような基礎的な調査をさせていただいて、それをまとめて、その結果をもってまた来年度具体的な目標や成果指標にそれを活かしていきたいと思っております。
- (渡辺会長) 令和5年度が調査の年で、来年度それを基に策定していくということですね。
- (事務局高橋) あとは、「こども基本法」ができましたので、「市町村はこどもに関する総合的な計画を作りなさい」という努力義務もできてきております。その総合的な計画というのは、子どもに関する基本的な方針ですとかを筆頭に、この「子ども・子育て支援事業計画」や「子ども・若者育成計画」、貧困に関わる施策、長期的な少子化への対策、そのようなものを含むような大きなこどもの計画を作りなさいよというものになります。努力義務ですがそのようになってきていますので、来年度はそこもふまえて行ってきたいと思っております。この「子ども・子育て支援事業計画」だけでなく、こどもに関する総合的な計画を最終的にはゴールにしていきたいと思っております。ですので、今年度よりも「子ども・子育て会議」の回数を増やさせていただいております。
- (渡辺会長) この「子ども・子育て会議」がベースになっていくのではなくて、もう少し大きな会議をするのでしょうか？
- (事務局高橋) 「子ども・若者育成計画」というものもございまして、こちらは現在教育委員会のほうが所管になっておりますので、そういう一部分は教育委員会の方でも検討しつつ、全体的なものはやはりこの「子ども・子育て会議」でとりまとめはしていきたいと思っております。あとは、今保護者の意見を聞いておりますけれども、直接「こどもの意見を聴く」ということが必要になってきますので、来年度はそういうお子さんへの直接的なアンケートや意見聴取のようなことを実施して、それをまた計画の中に反映させていきたいと思っております。
- (渡辺会長) 全てのことを網羅して作っていくという、なかなかの作業になるかと思えます。また皆様のお力をお借りしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

### (3) 令和6年度子ども・子育て会議の日程について (資料3)

---

(事務局柴田からの説明)

#### 質疑応答

---

質問なし

#### (4) その他

---

(事務局柴田から子ども計画について説明)

#### 質疑応答

---

- (渡辺会長) 「子ども・若者育成計画」がプラスされるということですが、これは教育委員会の青少年センターが所管しているということですね。
- (事務局柴田) そうですね。あと先ほど高橋次長からも説明がありましたように、子ども若者の意見を反映していくということで、方法等については今後考えていきたいと思いますが、そちらも丁寧に意見聴取を行っていききたいと思います。
- (渡辺会長) どちらにしても子ども・若者の意見、生の声をたくさん吸い上げて作っていくということですね。
- (石黒推進監) すみません。質問よろしいでしょうか。今回、計画を見直すにあたって、広い計画にしていくということなのですが、「子どもファースト」の視点で、健康推進課のほうで「子育て世代包括支援センター」また「母子保健係」ということで、「母子保健」の部分を進めています。やはり子育てというのは妊娠・出産から乳幼児の母子保健というのも非常に大事な視点かと思われるのですが、他市町村では「母子保健計画」というものを作られているところもあり、「母子保健」の視点なども今回の「こども計画」の中に入れていただけたほうがよいかもしいとも思います。今、教育委員会の話が出ていたのですが、母子の「切れ目ない子育て」という部分の内容について、今回の「こども計画」の中に入れていただけたらという部分についてのご意見をいただけたらと思います。いかがでしょうか。
- (事務局高橋) そこは検討させていただきますけれども、妊産婦、子育て世代、こどもに対しての総合的な計画を考えると、母子を含むような部分も必要になってくるのではないかと思います。含めるかどうかまた検討させていただきます。
- (石黒推進監) 実は、来年度「健康がまごおり21計画」という計画も大幅に見直しになりまして、新たな第3次計画を作る予定があるのですが、ライフコースの取組の中に、一部「母子」という視点を入れようか、もしくは「こども計画」のほうに「母子保健」の視点をいれたいかどうか、迷う部分があります。どのように子ども達の発育・発達をみていくかというのは、こども全体で見て大事な視点かと思しますので、どこかで目指す姿みたいなところも掲げながら、計画の数値なども入れていきたいと思うのですが、どちらに入れたほうが効果的というか、関連性があるのか。どうしても健康というと、こどもだけ切り離せない部分もあるので、親の健康、こどもの健康ということで、健康づくりの計画に入れていくほうがいいのか、もしくは「こどもの計画」ということで、「母子保健」というのは「成育」と「福祉」と両方絡んだ形での支援をしていくというのは大事な視点かと思しますので、どちらのほうがいいのかなと自分自身も迷うところです。健康推進課と子育て支援課とで調整させていただきながら、どのような計画を作っていたらいいのかということ、今一度検討しながら進めていただけたらありがたいと思います。

(渡辺会長) どのような形になるにしても、大事な視点ですよ。検討をお願いします。

(山本委員) 私は、発達障がいとか発達につまずきのあるお子さん、障がいのあるお子さんの相談の事業とこどもが通う事業所をやっています。その中で、そこを卒業して学校に行ったお子さん達の中に、最近学校に行けなくなっている子達が本当に増えてきているという印象があります。卒業している子達なので、直接相談を受ける機会は減っていますが、とても耳にする機会が増えていきます。どこの計画に入れていただくのが適当かは分かりかねていると申し上げているんですけども、今までの枠組みではたぶん受けきれなくなっているのではないかという実感があります。昨日も別の会議で申し上げたのですが、教育委員会さんが少しずつ始められていると伺っていますが、例えば他市だと、岡崎市は学校の中に「F組」というフリースクールみたいなものが学校単位で行われているようなことも聞いております。たぶん枠組みから変えていただいたほうが、その子達の居場所が増えるのではないかという思いがありましたので、ここで申し上げるのが適当かどうかわからなかったですけども、こども全体のことを考える会議だということだったので、お伝えしておきたいなと思いました。

(渡辺会長) 岡崎市のすべての中学校に校内フリースクール「F組」が設置されています。蒲郡市でも蒲郡中学校に全くの枠がないわけではありませんが、「F組」のような不登校に対応する教室も設置されている状況ですけど、牧原先生何かご存知ですか。

(牧原委員) 今年からなので、そんなに情報が入っていません。

(渡辺会長) 不登校については、皆さん危機感を持っていて、やっぱり学校の中に納まりきれない子達がこれから少しずつ増えていくのではないかと思いますので、そのあたりのことは検討して、この計画の中に活かせるものであれば、そのようにしていきたいと思えますね。

(事務局高橋) どこにそのようなことを規定するかというのはありますので、こちらなのか、教育委員会のほうの何かの計画なのか。今日は学校教育課長が欠席ですので、このことはまた伝えさせていただきます。

(山本委員) 「F組」も中学校で始められたというのはお聞きしているんですけども、小学校から行けなくなっている子達の話も聞きます。とても増えていると思います。

(渡辺会長) その点も学校教育課長に伝えていただければと思います。その他、ご質問・ご意見等ありますでしょうか。

それでは、最後に愛教大の鈴木先生、何かご指導がありましたらお願いします。

(鈴木委員) 大量のデータご苦労様です。実は他の市町村も同じような調査を、これからされるような所も結構ありまして、質問項目ややり方など相談を受けたりします。先程、「オンラインが効果的だ」ということでしたが、実は先日の所は業者に言わせると、そう大して増えないと、つまり「オンラインの数は増えますが、オンラインでないとやらない人がいるわけではない」というデータに基づいて「やらない」という決断を下しておられました。今時ですから、オンラインの方が絶対良いのですが、大量の質問項目がありますのでオンラインでもやらないのではないかと、そもそもこの5割の方に敬意を表するというか、この量をやってくださっていることに驚いています。先程のお話ですと、「30～40人回答者が増えている」それはオンラインのおかげなのかなと思ったら、やっ

ぱり細かなデータを拾うという意味ではオンライン効果的なのかなと思って、聞かせていただきました。あと、大前提として「こども大綱」というのが年末に閣議、発信されて出てきているところから、「各市町村で骨太の計画を立てなさい」という、良く言えば、お金をつけてくれるのであればやりがいもあるけれども、大変な仕事だよなという感じは受けております。特に「こども大綱」の発想はご存知だと思いますけれど、「こどもをまんなかにおきましょう」という言い方に基づいて立てられているというふうには読みますけど、一番大きいのは「こどもの権利」、「こどもが権利の主体である」という認識を再度確認してくださいという意味で、こどもの意見を聴く。そして対話しながら進めてくださいということと、先程も出ましたけれども、こどもというのは、いわゆる切れ目なく「出産前から本当に成人する成年まで含めてこども」ととりなさいという問題であって、幼児や小学校だけではありません。先日たまたま生物学的な学会に出たときに、「人間というのは、20歳（はたち）にならないと大人になれないという、唯一固有な生命体である」と。歩くのに1年かかり、大人と認められるには20年かかるということである、すごく切れ目のない支援の問題をもう1回ここに戻して考えるべきだということも言われておりました。なかなか世の中は、今動きがあってこの問題に関して関心は持たれているけれども、どこから本当にとりかかるか、先程、健康推進課の方もおっしゃっていましたが、本当に抱え込んだらすごく膨大な政策が必要になってくると思いますので、蒲郡市さんとして、今1番やりうることをある程度絞って、連携をとって、縦の課ではなく横に連ねて政策を作っていくかと思うと良いかと思います。言い方が良くないですが、小さな市ですので、逆に言えばその利点みたいなことを。動きやすいですね。明石市みたいに、1つ決めたらわーっと動くみたいな感じもあって、とても楽しみにしています。来年、大変だなと思いながら、蒲郡市ならではの活かし方ができたらいいなと思います。こども大綱、ちょうど12月に閣議決定で出てきましたけど、まだこれからどういう形で具体化して、予算が下りてくるかわからないという状況の中で進めなければいけない大変さはあるかと思っています。大変ご苦労様でございますが、ちょっと前に向けるようなことがあるといいなと思います。ただ、「こどもに意見を聴く」というのはなかなか難しいと思います。どのように意見を吸い上げるかということ自体の方策も考えないといけないなということは、色々な市が「こどもの権利」ということに関して言っているということはあると思いますけれども、私もここは悩ましいなと思いながら、この「こども大綱」を読んでみております。また、どこかでそういう細かな話し合いができればなと思います。すみません、ちょっとまとまっていませんが、ありがとうございました。

(渡辺会長) 確かに「こどもの意見を聴く」というのは本当に難しそうだなとやっぱり思いましたが、色々頑張ってください、蒲郡市ならではのものができたらいいなと思っておりますので、また皆さんのご協力をお願いいたします。

以上